

主人公の心情を徹底して追う

成長・貢献・感謝

名護市教育研究所で研修中の1・S先生の公開授業が15日(水)、本校多目的教室で行われました。

学級は1年3組さん、「トロッコ」の第3回目、「情景描写から主人公の心情捉え、共有する」ねらいの授業でした。

3組さんは、大勢の小中の先生方に見守られながら、少し緊張しながらも懸命に主人公の心情を読み取るうと努力していました。いつもなら活発な意見が飛び出す学級ですが、この日は様子が違って、少し発表が消極的だったか？



課題解決に集中する



山を登るが如く理解を重ね高めていく

学習は生徒自身のものだから、間違いなどを気にせず、学習を続けていきましよう。友達の手も借りながら、感じ取れるまで何遍も読み返すことですね。

「トロッコ」はわずか8才の男の子が、トロッコに乗れることに憧れを持ち、勝手に動かして叱られたり大人達に認められながら意気揚々とトロッコを押したり、乗ったりすることで成就感を味わう前半場面と「もう帰んな」と大人達から冷淡に言われ、不安を抑えながらすすべてを投げ捨て、母の待つ家路をひたす

「命さえ助ければ」のくだりから、必死さが伝わってきます。まさに「生死の境目」でもがく主人公の心の動きが映像として伝わってきそうな名文です。これらを伝えるためには論理的な思考力が必要です。

何故、そう考えるのか、その根拠は何か、もっと別の考えはないか？、多様な思考ツールを活用して説明できるよう語彙力も高めてほしい。国語は自分や相手の考えや気持ちを伝える・つかみとる教科だから。



個人で読み込み心情を探す

羽地中校区合同研修会



言語活動の充実がアクティブラーニングの力と語る佐藤眞氏

学習状況の評価の観点について、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されたこと、等、実践例も紹介しながら講話されました。研究チームである小中連携についても、小中で9年間の子どもの成長の姿を具体的にイメージして共有し、各教科の教材や総合的な学習に落とし込んでいくこと、タブレットを活用して学力を伸ばしていくこと、など示唆に富んだ助言をいただきました。今後の授業改善に活かしていきます。ありがとうございました。



心情が読める文章をマークする

S先生の検証授業を終えて、全体会では、三小学校の先生方と合同の研修会を持ちました。今回は2回目。全体の講師として、関西学院大学教授、学長特命、高大接続センター1副所長の佐藤眞先生をお招きし、授業の振り返りと講話を拝聴しました。

新学習指導要領で求めている目標と内容が資質能力の三つの柱で再整理されたこと、各教科における観点別

羽地中学校
学校だより167号
R2. 1. 17